

地域ぐるみで 高齢者の交通事故防止を！

高齢化社会となる中、ここ数年高齢者がかかわる交通事故は増加しており、特に交通事故死者では高齢者が全死者の約4割を占めています。

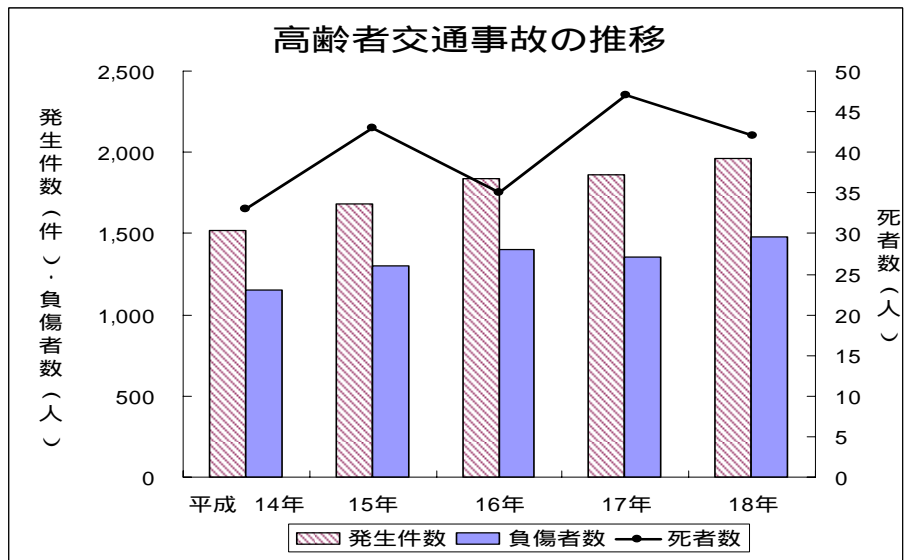
交通事故防止対策では「子どもと高齢者の事故防止」を重点項目としていますが、地域ぐるみで具体的な行動を起こすことが何より「無事故」への対策ではないでしょうか。

町内会等の会合で少しの時間をさいて、高齢者の交通事故防止を話題にする、高齢者が交通事故に「あわない・起こさない」ため、町内の危険箇所やヒヤリとした体験を話し合う、自動車の特性や交通事故状況等の知識を学ぶなどの行動を起こすことで、地域全体の危機意識が高まり、悲惨な交通事故を防止することができるのです。

資料1

過去5年間の高齢者交通事故状況を全体的に見ますと、年々増加の傾向を示しています。

死者数は増減が見られますが、平成18年中は高齢者死者数が42人（全死者数の41.2%）に上りました。



資料2

新聞コラム欄から・・・例えば、このような文章を読みあった後、感想や体験談を話し合ってみてはどうでしょう。地域の課題が見つかるかもしれません。

「運転気をつけ、被害者出すな」

七十八歳女性

昨年二月、歩道を歩いていて車にはねられた。あつと思つた瞬間、頭はパニックになり、体は動かなくなった。やがて腰から下に激痛が走る。

救急車がきて病院へ搬送された。エックス線撮影で左ひざが骨折してグチャグチャになっていることが分かり、二回手術を受け人工骨を入れた。この間、猛烈な激痛に悩まされ心理的にすっかり落ち込んでしまった。

治療が一段落すると今度はリハビリが始まる。ひざを床に付ける訓練は、あまりの痛さに悲鳴を上げ涙があふれた。

「我慢して耐えてください。」と励まされながら、ひたすら痛みを耐えりハビリに励んだ。

最近、なぜ事故に遭つたのかとよく考える。運転者が前をしっかりと見ていたら、歩道を歩いていた私をはねることはなかった。一人の老人が障害者にならずに済んだのにと思うと悔しくてたまらない。友人はひざだけでよかったと慰め、励ましてくれるが、私の最後の人生はすっかり狂ってしまった。

車を運転する人に言いたい。私のような障害者をこれ以上出さないためにも、安全運転に努め事故は絶対に起こさないようにしてほしい。

(2006/6/19 中日新聞)